

## 編集 後記

本誌編集委員の6年間は大変貴重な経験であったが、感謝と貢献不足に対する反省が相半ばしている。その間、掲載までの時間短縮を望む声をよく耳にし、編集委員会でもそれに応える方法を模索してきた。本誌の特筆すべき点は、論文の掲載までに査読者の極めて大きな努力が注がれていることではないかと思う。優れた学術誌の多くでは、水準に達していない原稿は無情に著者に送り返されてくるのが常であり、基本的な書き方まで指示してくれるような査読意見にはまずお目にかからない。水準に達していれば、査読意見は厳選されており、IT化されたシステムと相俟って、掲載までに要する時間は短くなる。しかし、本誌には、原稿は出来るだけ採用の方向で考えようという姿勢がある。従って、本来、査読者と著者との間のレフェリーの立場である編集委員には、その様な役割に加えて論文完成に向けた教育的配慮が求められることが多くなる。その姿勢は、間接的ながら査読者の意見に反映されることになり、掲載までの期間短縮とは反対方向に作用することになる。因みに、本号の掲載論文11編の受付から採用までの期間は5ヶ月から15ヶ月にわたり、平均値9.3ヶ月は昨年度1年間の投稿論文161編の採用までの平均期間8ヶ月と比べるとやや長い。なお昨年度、受付から初回の査読意見の送付まで平均2.8ヶ月かかっており、平均事務取扱期間0.5ヶ月を考慮すると査読者の手元に2.3ヶ月止まったことになる。これが長いのか短いのかの判断は難しいが、解決策の一つに、投稿に際しての論文の完成度を高めることが上げられよう。昨年のは拡大編集委員会で有志から論文の書き方に関する講習会を開こうとの声が上がった事はその点を踏まえてのことと思う。この動きが掲載までの期間短縮の大きな推進力になることを期待している。

(豊嶋英明)

## 次号予告

### 総説

遺伝子組換え食品の受容性と安全性評価の現状と動向……………西浦 博, 他

### 原著

産後1か月前後の母親に対する看護職による訪問看護の効果

母親の不安と育児に対する捉え方に焦点をあてて……………都築千景, 他

Helicobacter pylori の Cytotoxin-associated geneA (CagA) 陽性株感染および生活習慣と慢性萎縮性胃炎との関係……………岩橋満愛, 他

2型糖尿病患者の自己管理行動と認知的スキルとの関連についての検討……………竹鼻ゆかり, 他

シックハウス症候群の症状と関連する要因

北海道の一般住宅を対象にした実態調査……………西條泰明, 他

### 公衆衛生活動報告

行動療法による体重コントロールのための指導者教育プログラムとその評価

……………足達淑子, 他

## 日本健康科学学会シンポジウム

### 健康維持と「健康食品」～サプリメントとどうつきあうか～

近年益々関心の高まるサプリメントの活用に関心をあて、シンポジウムを開催いたします。食品の分類と表示、健康補助食品の利用方法や注意点を踏まえ、健康維持や生活習慣病の予防のために、私たちの生活にどのようにとり入れていくべきか等、サプリメントについての最新の研究動向が、青少年や社会人に普及することを目的としています。なお、本シンポジウムは、文部科学省科学研究費補助金の交付を受けて行われます。

日時：平成15年1月25日(土) 10:00～17:00

場所：東京医科大学病院 臨床講堂 6階 (椅子席320名)

申込方法：事前申し込みが必要です。

詳細は学会ホームページ <http://www.hs.ipu.ac.jp/HS/index.html>

シンポジウム事務局 TEL:03-3384-8037 FAX:03-3380-8627

E-mail:health-sci@herusu-shuppan.co.jpまでお問合せ下さい。